

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和2年5月25日（月）～令和2年5月31日（日）〔令和2年第22週〕の感染症発生状況

第22週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) 突発性発しんでした。

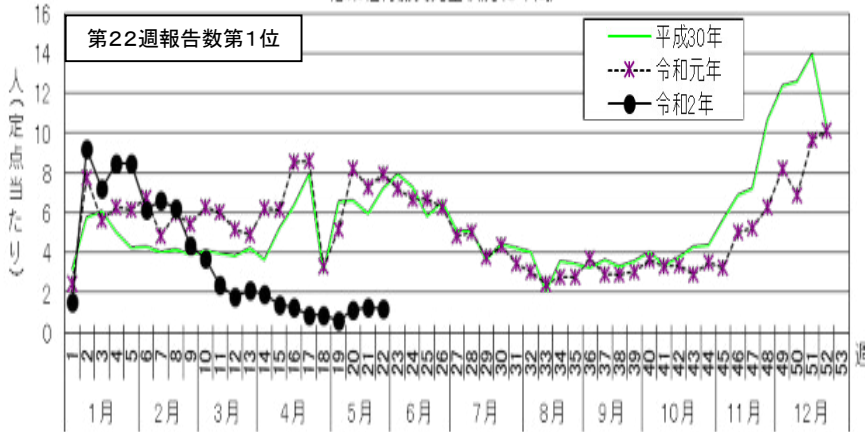
感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は1.22人と前週（1.30人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は0.59人と前週（0.46人）から増加しましたが、例年より低いレベルで推移しています。

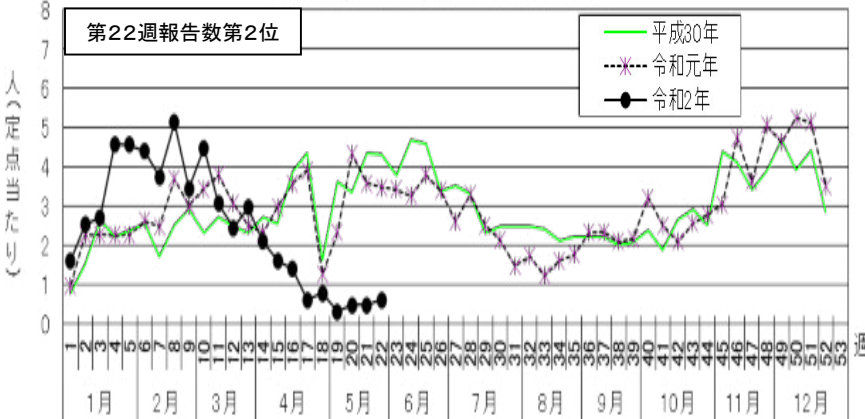
突発性発しんの定点当たり患者報告数は0.38人と前週（0.30人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



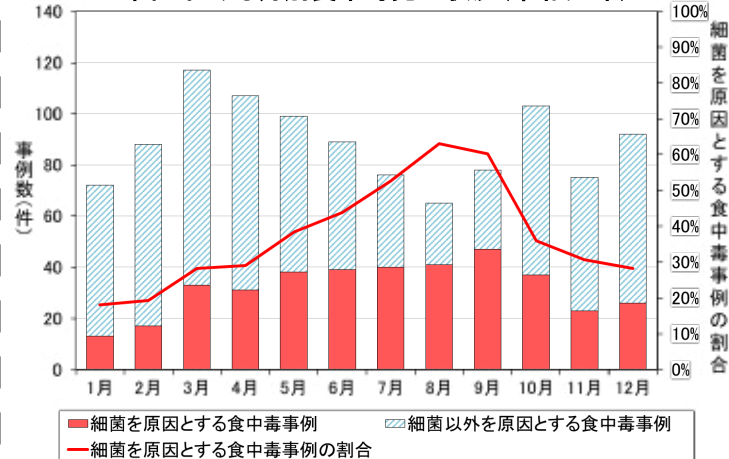
食品の取扱いに御注意を！～細菌性食中毒～

食中毒の原因は、細菌やウイルスなどですが、気温や湿度が高くなるとカンピロバクターや腸管出血性大腸菌（O157、O111など）、黄色ブドウ球菌などの細菌を原因とする食中毒が増加します。

今年は、5月下旬以降、気温や湿度が平年より高い日が続いています。川崎市では、今年度に入ってから細菌性食中毒の発生はありませんが、今後気温の上昇とともに増加する可能性があります。

食中毒を防ぐため、手洗いを徹底するとともに、購入後の食品は適切に保存し、早めに食べるなど、食品の取扱いには十分注意しましょう。

全国における月別食中毒発生状況(令和元年)



食中毒の3原則

- 1 つけない**
手洗いの徹底
調理器具の使い分け
- 2 増やさない**
低温で保存
- 3 やっつける**
十分な加熱
器具の消毒